

総論

満点	150点	目標得点	110点	試験時間	80分	偏差値	B:74
大問数	3	小問数	45				
【解答形式】		選択式	33/45問	記述式	5/45問	論述式	7/45問
【問題難易度】		C	10/45問	B	11/45問	A	24/45問
※問題難易度：C難問、B合否を分ける問題、A正答すべき問題、を示す							

Topics

- 1：大問数が昨年度より減少して3題となり、一昨年と同じ形式となった。小問数は、昨年度の80問から45問と大幅減であるが、論述問題が4問から7問に増加して、国立大学化したと言える。
- 2：従来の1600年以降のみの出題に戻ったが、戦後史の出題が大幅に増加した。昨年度は、中世の文化も出題されたが、今年はお題されず。
- 3：年号配列問題・正誤問題・地図問題・論述問題、図表読み取り問題が大きな柱となり、作り方は今年も変わらず。論述問題は字数指定がなくなった。

こんな力が求められる！

毎年出題されている年号配列問題は、年表を空欄にしていく形なので、普段から年号を覚えるのはもちろんのこと、年表なので同じ年代に何があったのかをチェックしておくことが必要である。

正誤問題は、基礎的な用語で判定できるものが多いので、センター試験の過去問もやり込むことが一つの訓練となる。なお、文化史がらみの正誤は江戸時代が頻出なので、他学部の江戸の文化の問題などもやっておくとかなり楽に取れるかと思われる。

地図問題は、センター試験の過去問、立教大の過去問、中央大の過去問や立命館大の過去問などにも頻出されているので合わせて解いてみて慣れることが大切である。さらにテキストの地図で地名をチェックする作業をまめにしておこう。思考する問題ではないので、見たことがあるとそのままとれるため、ある意味ボーナス問題となるためここは落とせない。

論述問題は、今年はかなり難化したため、本学部の過去問と合わせて一橋大の過去問を解いていくことも必要と考えられる。共通していることは、近世以降に特化した問題であることと、一つの問題が100字前後になる点である（一橋大は小問4題で400字を自分で振り分けるため）。

図表読み取り問題は、テキストや教科書の図や表をチェックする作業をまめにしておこう。

具体的な対策としては、お茶ゼミのテキストで言えば、早慶レベルの用語と年号を徹底してつぶしていくこと。そして、授業後に、山川出版『詳説日本史』などの学校の教科書の該当部分を熟読して、要点をまとめる作業を普段からしておく必要がある。

【I】

予想配点 46/150点	時間配分の目安 20/80分
出題分野・テーマ 近世の外交	
出題形式 選択、記述、論述	
小問別解答と難易度 ※問題難易度：C難問、B合否を分ける問題、A正答すべき問題、を示す 問1 (a) A (b) A 問2 a. C b. C c. C d. C 問3 (1) A (2) A 問4 (1)a. A b. A (2) B (3) A 問5 (1)a. A b. A c. A d. B (2) A	
お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連 ※高3履修分に限定 ハイレベル・総合：5月期3回、6月期2回、7月期1・2回、10月期1・2回、 冬期対外交渉史I 2・3回 センター：5月期1・4回、6月期3・4回、夏期センターレベル文化史3・4回、 冬期対外交渉史I 2・3回	

●本大問の特徴・概要

近世のみの出題で、全体から見たら一番得点しやすい大問となった。本学部の特徴である年表・地図・正誤・論述がすべて入っている良問と言える。

外交が主題であるため、最初の文章にとまどった学生も多く見受けられたようだが、教科書に類似した文章があり、基本的には山川出版『詳説日本史』などの学校の教科書をもとに出題されていることがわかる。

年号や文化史の問題を含めて、基本的なものばかりで、マニアックな用語を問うている問題は皆無であり、ミクロ的な学習よりもマクロ的な学習が必要である。

●注目すべき小問

問2 都市名と位置を問うている問題で、日本史というよりも地理的な常識が関わってくる。ただ、セットで完答と思われるので、難易度が高い。

問4(2) 「キリスト教禁止」と「貿易統制」の二点を書けるかどうかキーとなる。教科書熟読していれば、そのままの問題なので、一般的な良問である。

問4・5の史料は必見史料なので、史料をただでしか史料名と年代が言えるようにしておく必要はある。ただし基礎問題である。問5のdの「オランダ国王の開国勧告」についても、山川の史料集などには載っているので、当学部の受験生は史料も手広く見ておく必要がある。ちなみに、初見の学生であっても内容的に「開国勧告」ということは読み取れるので今回は解くことができる。

【Ⅱ】

予想配点 46/150点	時間配分の目安 25/80分
出題分野・テーマ 鉄道史	
出題形式 選択、配列、記述、論述	
小問別解答と難易度 ※問題難易度：C難問、B合否を分ける問題、A正答すべき問題、を示す 問6 (a) A (b) A (c) B (d) A 問7 A 問8 B 問9 B 問10 B 問11 A 問12 (a) A (b) A (c) A (d) A 問13 a. A b. A c. A d. C	
お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連 ※高3履修分に限定 ハイレベル・総合：7月期4回，夏期近現代史Ⅰ4・5回，9月期4回 冬期社会経済史Ⅱ2・3回 センター：7月期2・4回，9月2回，10月期4回，冬期社会経済史Ⅱ2・3回	

●本大問の特徴・概要

近現代の鉄道史の出題で、交通・通信史は慶應の頻出テーマのひとつでもある。同様のテーマとしては、2007年度文学部で類似問題が出題されている。全体から見たら合否を分ける大問となった。本学部の特徴である年表・正誤・図表・論述が入っている頻出パターンである。

図表問題は、読み取ればとれる問題が主流であり、今回も初見であっても年号をチェックしていけば解けるようになっている。

●注目すべき小問

問7 「前橋」がキーとなって当時の主要輸出商品と言ったら「生糸」と割り出せる。ワンステップ置いてある問題ではあるが、こういう問題がすぐ取れないようでは知識的に学習不足と言えよう。

問8 1と3と4は全て「1894年」、2と5は「1895年」であり、同じ年代のものを並べ替えさせるタイプなので、単に年号を覚えるだけでなく因果関係が理解できているかを問うている良問である。

問9 「軍事的」「経済的」側面を書くことがキーとなるが、山川出版『詳説日本史』には「軍事的」側面しか書いてないため、やや難問と言える。山川出版『詳説日本史研究』を近現代中心に読み込んでおけば書けるので、合否を分ける一問と言えよう。

問10 論述問題ではあるが、前提として指定用語を絞らなければいけない、新しいタイプの問題である。年号的にすぐ絞れると思うが、ワンステップ置いた論述問題なので、内容的には基礎的な頻出論述であるが、合否を分ける一問と言えよう。

問12 慶應-経済らしい問題である。センター試験の過去問でも図表読み取り問題は頻出なので、ある意味ボーナス問題と思って冷静に見ていけば解ける。今回はaが自動車で、dが航空であることはすぐにわかる。そこで、残ったいずれかが国鉄(JR)ということになるわけであるが、鉄道国有法の流れから行けば国鉄(JR)が私鉄を上回っているはずなのでbが国鉄(JR)とわかる。

問13 dは教科書には記述がないため難問といえる。ただ、お茶ゼミの戦後史のテキストには載っているので、テキストをちゃんとやりこめばかなりの難問に対応できることがわかる一問でもある。

【Ⅲ】

予想点	58/150 点	時間配分の目安	35/80 分
出題分野・テーマ	高度経済成長以降の日本経済		
出題形式	選択、記述、論述		
小問別解答と難易度	※問題難易度：C難問、B可否を分ける問題、A正答すべき問題、を示す 問 14 B 問 15 C 問 16 A 問 17 (1)a. B b. B c. C d. C e. C (2) B (3) C (4) B		
お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連	※高3履修分に限定 ハイレベル・総合：9月期4回 センター：10月期4回		

●本大問の特徴・概要

高度経済成長以降の日本経済についての出題で、「高度経済成長」は本学部の頻出テーマのひとつでもある。同様のテーマとしては、2006年度以降何回か類似問題が出題されている。

戦後史の細かい知識と、因果関係を問うている大問で、本年度最難問といえよう。毎年、最後に難問が来るが今年は論述問題がかなり増加したため、時間配分を間違った学生にはかなりきつい内容と言える。

●注目すべき小問

問14 「国際競争力の強化」による「外資の進出に対応」がキーとなる。標準的な論述問題ではあるが、意外と教科書を熟読していないと、わかっているにもかかわらず書けない点でもあるので、可否を分ける一問でもある。

問15 「終身雇用」と「年功序列制度」は日本の経営ですぐわかるわけだが、労使関係の特徴を問うているので、「労使協調型労働組合」が書けるかどうかかキーとなる。完答なので、やや難問である。

問17(1)それぞれの年代がわからなくても、内閣がわかれば問題は解ける。ただ、2の落ち込みがスミソニアン協定とつづく変動相場制移行はわかると思うが、それ以降をどれだけグラフで読み取れるかとタイアップしているので難問と言える。なお、同じグラフが、山川出版『詳説日本史』に出ている。

(2)「ベトナム戦争によるアメリカの国際収支赤字」、「金ドル交換停止のドルショック」、「スミソニアン協定によるドル切り下げ」、「変動為替相場制に移行」がキーとなる。(1)を解いている段階で、自動的に(2)も解いているためタイアップして書ける。問題自体は基本的な問題であるが、タイアップしているためやや難問である。

(3)「プラザ合意以降の円高不況」、「低金利政策(公定歩合の引き下げ)」、「技術革新などの投資」、海外進出による現地生産への転換」がキーとなる。バブル経済がわかっているかどうかという問題で、やや政経的分野でもあるが、最近では頻出分野でもある。やや難問である。

(4)「湾岸戦争時に多国籍軍に多額の資金援助」、「戦後、海上自衛隊の掃海艇をペルシャ湾に派遣」、「PKO協力法制定」、「カンボジアに陸上自衛隊を派遣」がキーとなる。「戦後、海上自衛隊の掃海艇をペルシャ湾に派遣」の部分は教科書には載っていないためやや難問となるため、部分点が取ればよいであろう。